

テーマ：

自衛隊の在り方に関する一考察

要 旨：

2007 年 1 月 9 日に、防衛庁は防衛省へと改編され、国際平和維持活動や災害救助活動への参加が自衛隊の本来任務にも加えられ、その姿を変えようとしている。自衛隊は、これらの活動を通して民の中に徐々に理解が生まれる最中であると言えるかもしれないが、旧軍の軍人を吸い上げる形で警察予備隊、保安隊、そして自衛隊は創設されており、その担い手が戦前の軍部と同じことは事実である。また、国民の意思を問うことなく既成事実化されたという、発足にまつわる歴史は隠しようの無い事実であり、現在の自衛隊が旧軍とは異なり、一人一人の市民のための組織であると、断言できるところまで到達したとはいえない。この報告を通して、自衛隊が、一人一人の市民の公共財としてのみならず、グローバルな世界における「人間の安全保障」の担い手として存在することが可能となるよう、新たな自衛隊の在り方を提示したい。

(岩田英子 早稲田大学社会科学部研究科博士後期課程)